

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

大竹市立小方小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	60	61	67	54	74	96	412	17	429
学級数	2	2	2	2	3	3	14	4	18

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	2.6	1	2	1	2
4年1組 (担任：A)	A	専科	A	A	推進	専科	専科	A	A	A	A	A
4年2組 (担任：B)	B	専科	B	B	推進	専科	専科	B	B	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：C)	C	専科	C	C	推進	専科	専科	専科	C	C	C	C	C
5年2組 (担任：D)	D	専科	D	D	推進	専科	専科	専科	D	D	D	D	D
5年3組 (担任：E)	E	専科	専科	E	推進	専科	専科	専科	E	E	E	E	E

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：F)	F	専科	F	F	推進	専科	専科	専科	F	F	F	F	F
6年2組 (担任：G)	G	専科	G	G	推進	専科	専科	専科	G	G	G	G	G
6年3組 (担任：H)	H	専科	H	H	推進	専科	専科	専科	H	H	H	H	H

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

②多面的な児童理解

- ・週一回は必ず「職員全体で」情報交換会を実施。
- ・気になったことは先延ばしにせず、「タイムリー」に報告・連絡・相談・確認し合う風土づくり。

④教師の負担軽減

- ・時間割を作成する際に、各学級の空きコマが偏らないように編成。
- (月から金まで、毎日最低1時間は空きコマがある状態を意識した。)



※色付きのところが専科の授業

5の1	外	体	算	理	総	総	理	理	国	社	算	体	学	算	音	道	国	国	算	体	音	外	国	社	家	家	図	図	算	社
5の2	体	外	国	国	理	算	体	算	理	理	音	社	家	家	体	社	道	算	国	外	図	図	算	社	総	総	算	国	音	学
5の3	国	社	音	算	外	理	算	社	国	国	理	理	体	国	図	図	算	道	体	社	家	家	算	外	学	算	音	体	総	総
6の1	国	算	図	図	体	外	家	家	算	社	総	総	理	理	国	国	体	算	社	道	算	音	外	学	社	理	体	音	算	国
6の2	家	家	算	外	社	体	社	算	図	図	国	国	総	総	理	理	算	体	外	音	道	社	算	国	体	音	理	算	国	学
6の3	社	算	外	音	国	国	国	体	社	音	算	学	算	体	図	図	理	理	家	家	外	道	体	算	総	総	算	理	社	国



<成果>

①授業の質の向上

- ・より専門的・系統的な指導ができた。

②多面的な児童理解

- ・先生方から上がった声の一部↓
- 「担任には見せない顔があると分かった。児童理解が深まった。」
- 「問題行動があった際、すぐに報告してくれるから、迅速な指導ができた。」
- 「担任では気付けなかった善行も教えてくれるので、褒めるきっかけができて助かる。」

④教師の負担軽減

- ・先生方から上がった声の一部↓
- 「1日の中で毎日ホッとできる時間があるのは嬉しい。たった1コマでもリフレッシュできる。」
- 「校務分掌に取り掛かれたり、ノートをじっくり見たりする時間があるのは助かる。」
- 「放課後の授業準備が少し楽になった。その分早く退校できる機会も生まれた。」

＜課題＞

①授業の質の向上

- ・多くの教員が関わるため、指導方法に一貫性が欠ける可能性があった。

②多面的な児童理解

- ・教員によって、授業態度が変わる児童がいた。



＜対策＞

①授業の質の向上

- ・定期的に会議を開き、指導内容や授業の状況を共有することで、指導の一貫性を保つ（すり合わせる）。
- ・評価基準を明確化・共有することで、児童の学習成果を一貫して評価できるようにする。
- ・他の教師が指導方法を観察し、フィードバックを提供することで、指導方法の改善と一貫性を向上させる。

②多面的な児童理解

- ・全ての児童が共通して守るルールを明確にし、友達にも、先生にも、公正・公平に関わらせる。
- ・教員同士で定期的に児童の状況や問題行動について情報を共有し、対応策を議論する。
- ・スクールカウンセラーのサポートを通じて、児童の感情を理解し、適切に対応する。
- ・保護者と密に連絡を取り合い、情報共有することで、家庭での声掛け・サポートもお願いする。